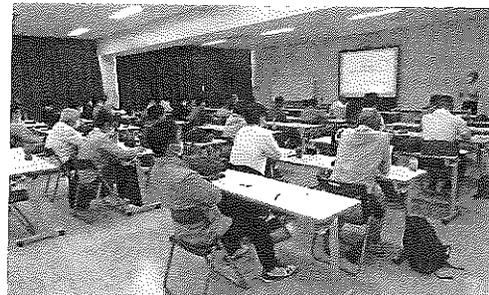


# CIW検査業協会

## 東京都知事認定研修会を開催

### 外観・内質検査の実習も実施

CIW検査業協会（会長 逸見俊一・検査サービス 社長）は9月27日に東京・台東区民会館で、東京都知



約40人が参加

事が認定する「建築物の工事における試験及び検査に関する研修会（鉄骨溶接部に係る）／付・溶接部の外観検査及び内質検査の実習」の「令和2年度第1回」を開催した。約40人が参加した。コロナ対策として会場定員の50%以下の受講者数とし、会場入り口での検温や講師のマスク、フェイスシ

ールド着用など対策を講じたうえで実施した。

講義は次の3テーマで行われた。①東京都都市整備局市街地建築部建築企画課の宮崎裕ノ介氏による「検査機関の東京都知事登録制度について」

②日本溶接協会・技術アドバイザーの江端誠氏による「外観試験について」

③CIW検査業協会・技術委員会の古舘岳実委員による「建築鉄骨溶接部の検査について」



実習のよう(溶接外観)

外観検査の実習では4班に分かれて▽木質試験体による、食い違い測定▽同、仕口ずれ測定▽溶接外観の目視判定▽硬さ測定による内質検査——の実技実習を行った。

# フェーズドアレイ検査法確立WG 東構協と共同研究団体

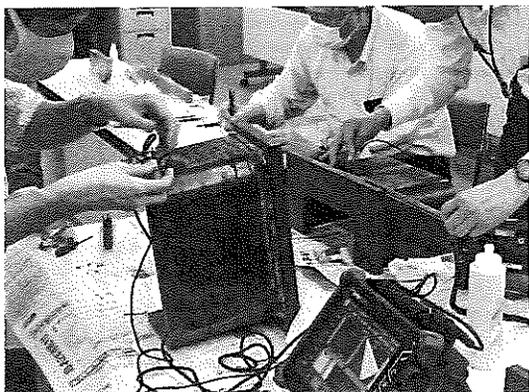
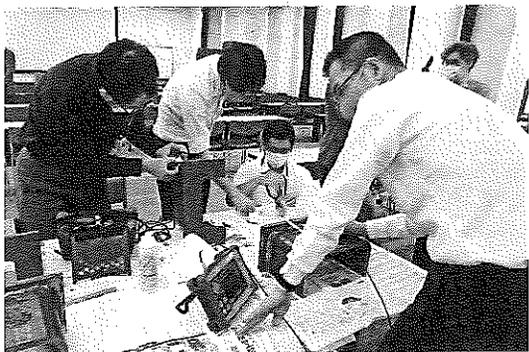
## 埼玉県鉄構業協組で開催

東京鉄構工業協同組合（理事長 吉岡晋吾・吉岡工業社長）と埼玉県鉄構業協同組合、CIW検査業協会、オリンパス、学識経験者らによる「フェーズドアレイ検査法確立WG（ワーキンググループ）」が9月

23日に埼玉県川越市の埼玉県鉄構業協同組合会議室で開催された。当日までに製作した実験用テストピースの模擬検査を行うとともに、今後の試験体製作の課題などを協議した。

模擬試験は人工きざずを入れたテストピースについてフェーズドアレイと従来型

UT探傷器の両方で行った。おおむね同等の探傷結果が出ており、後日、きざの大きさや長さなど具体的な数字を挙げて整合性等について報告す



写真上下=模擬検査のよう

ることとした。

今後は別のテストピースを製作し、再度検証する。溶接時に、指定された位置・大きさの人工的な欠陥を挿入することが難しいことから、協議では人口きざずの入れ方の手法について工夫や意見が多く出された。

協議ではまた、「今回も

貴重なデータが取れた」「テストピースの切断検査などで、模擬検査結果の信頼性を確認する必要があるのでは」「さまざまな条件下や、系統立てた実験が必要」「将来的に信用されるデータとするため、慎重にステップを踏んで進めた方がよい」などの声があがった。